

人斬新兵衛 (二十卷)

帝キネ時代映畫

原作並脚色者

監督者

撮影者

主演者

紹介

上島量

渡邊新太郎

立花幹也

河津精三郎

第三百八十七號

時は幕末、所は京洛、勤王の志士と所撰組の對立、近藤勇と芹澤鴨と薩摩の士と祇園総妓の戀の淫引——最後が寺田屋の斬込み。凡そ幕末劍戟映畫にはなくてはならぬ必須條件は悉くこの一篇の裡に丸さされてある。主人公の人斬新兵衛がバサリ／＼と夜毎の闇に幕府の犬を及して行く、凄惨な、スヒードなストーリーの構成、帝キネ隨一の商賣人上島量の才氣と渡邊新太郎の銳氣さが時に人をこれに捲き込まうとするのであるが、矢張り幾十回繰り返されて見せられて来た幕末物に對する飽溺さに差引かれて終ふ憾がある。河津精三郎は凄くマスクして種に嵌らない。線が弱さが禍してどうも柄に嵌らない。池田重。近

月二十六日 常盤座) 興行價値—百パーセント 幕末劍劇。(十二